日 乗 連 ニ ュ ー ス
ALPA Japan NEWS
www.alpajapan.org Date 2009.04.06 No. 32 – 47

発行：日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan
幹事会
〒144-0043
東京都大田区羽田5－11－4
フェニックスビル
TEL.03-5705-2770
FAX.03-5705-3274
E-mail:office30@alpajapan.org

64th IFALPA Annual Conference, Auckland D Committee 報告

2009 年3 月20 日、64rd IFALPA Annual Conference, Auckland が開会し、21日にATS & REG（地域関連）のCommittee Sessions が行なわれました。D Committeeには約30人が出席し、委員長の年次報告に始まり、transition altitude、communication failure in VMC に関連してのIFALPA の新Policy の確認を行いました。IFALPA のPolicyはICAO Annex/PANS の変更、追加という形でIFALPA Annex/PANS としてまとめられ、ICAO および各国政府に働きかける原資料として使われます。

＜ATS Committee Chairman の年次報告＞

- 昨年は、IFATCA と IFALPA の合同の会議を行うことにより、お互いの意見を尊重しながら同じ方向に進むことを確認した。
- アフリカ大陸の RVSM においては、様々な問題があるが実行に向けて動き始めたことを確認した。
- Strategic Lateral Offset Procedures (SLOP)においては、CAR/SAM の no radar 空域などでGNSS を使用した航空機の増加により collision の危険性を減少させるのに SLOP を取り入れる方向であると報告された。オークランド FIR(NOPAC を除く)では約１％の使用にとどまっている。

地域関連に関しては、Performance based navigation(PBN)の実行において、各国の取り組みの度合いが異なっていることや、PBNとRNAVとの違い等運航に当たってパイロットには充分な教育が必要であることを確認した。

＜IFALPA 新 Policy＞

- **ICAO PANS-OPS に対する IFALPA 新 Policy**：Common transition altitude を低温時に注意を払いつつ MSA 以上であることを推奨する。また、近年の航空機の性能、APP 中の workload や航法精度の向上を考慮しつつ、approach procedures 内のすべての高度以上という観点から、common transition altitude を 10000ft か 20000ft のいずれかであるべき、とあるところを 10000ft か 18000ft のいずれかであるべきと提案する。

- **ICAO Annex 2 に対する新 Policy**：VMC 下での communication failure 時の action をまず、IFR を行い、できなければ VMC を維持して suitable airport に landing をという順番に変えることを提案する。